

4 調査結果

【小学校 第5学年】

平均正答率 (%)

教科	目標値	香取市平均	全国平均
国語	68.9	70.1	72.3
社会	58.5	59.8	60.1
算数	63.1	61.7	63.0
理科	69.2	74.7	73.9

目標値…正答できることを期待した児童の割合を示したもの

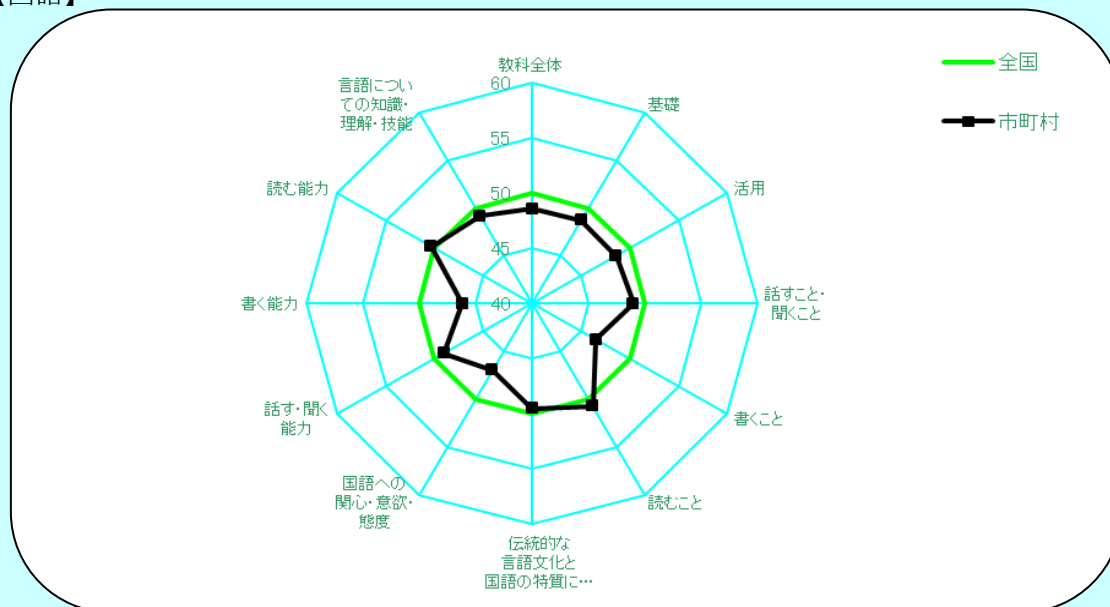
【全体的な傾向】

教科別に市平均正答率と全国平均正答率（以下、全国平均）を比較すると、理科は今年度も継続して上回り、国語と社会は、今年度は低下して全国平均を下回る結果となった。算数は、今年度も下回る状況が続いている。

小学校の教科ごとの傾向

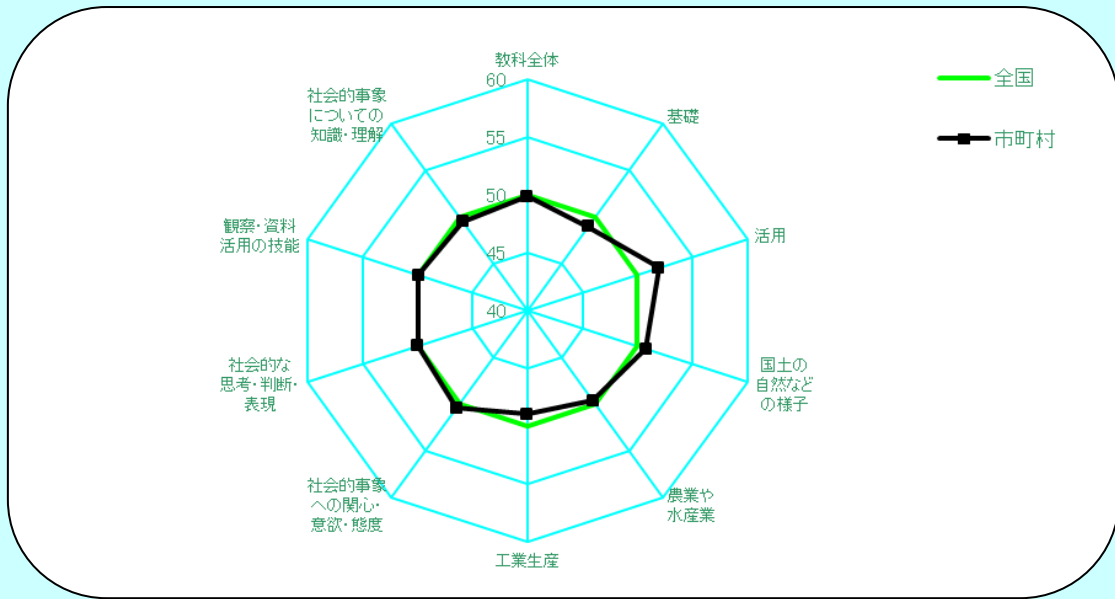
※グラフは全国平均を50として、香取市の平均正答率を相対的に表したものです。

【国語】



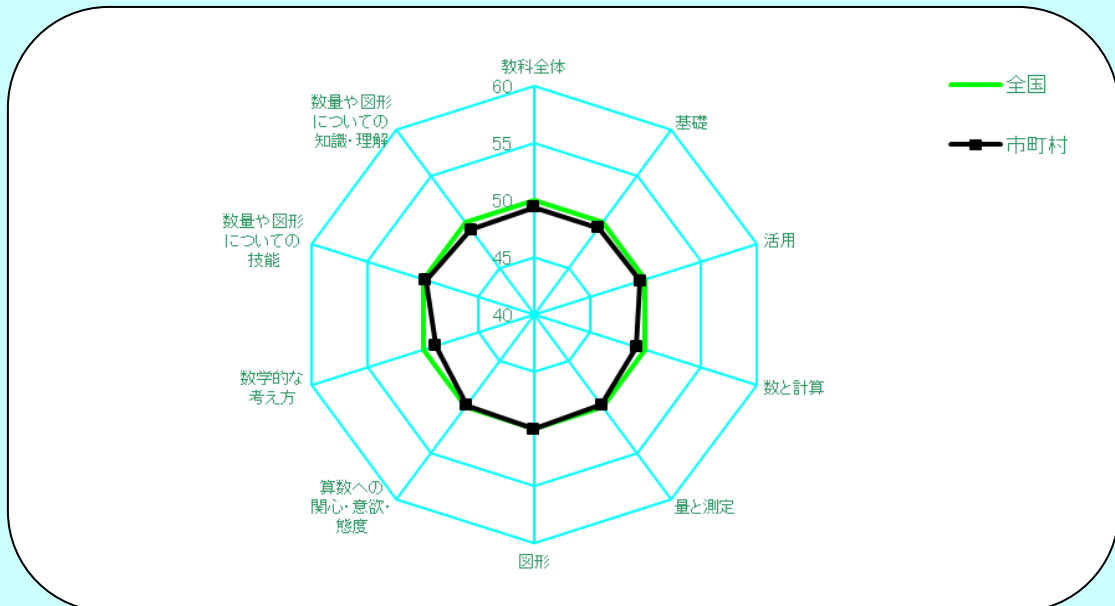
領域別（観点別）では、読むこと（読む能力）が全国平均と同程度の結果であった。しかし、書くこと（書く能力）では、市平均正答率が6割を超えたものの全国平均を下回る結果であり、「指定された長さで文章を書くこと」や「2段落構成で文章を書くこと」等の記述形式の学習活動を多く積む必要がある。また、関心・意欲・態度に課題が見られるため、文章を読んだり、書いたりする活動を楽しいと感じ、慣れ親しませることが必要である。

【社会】



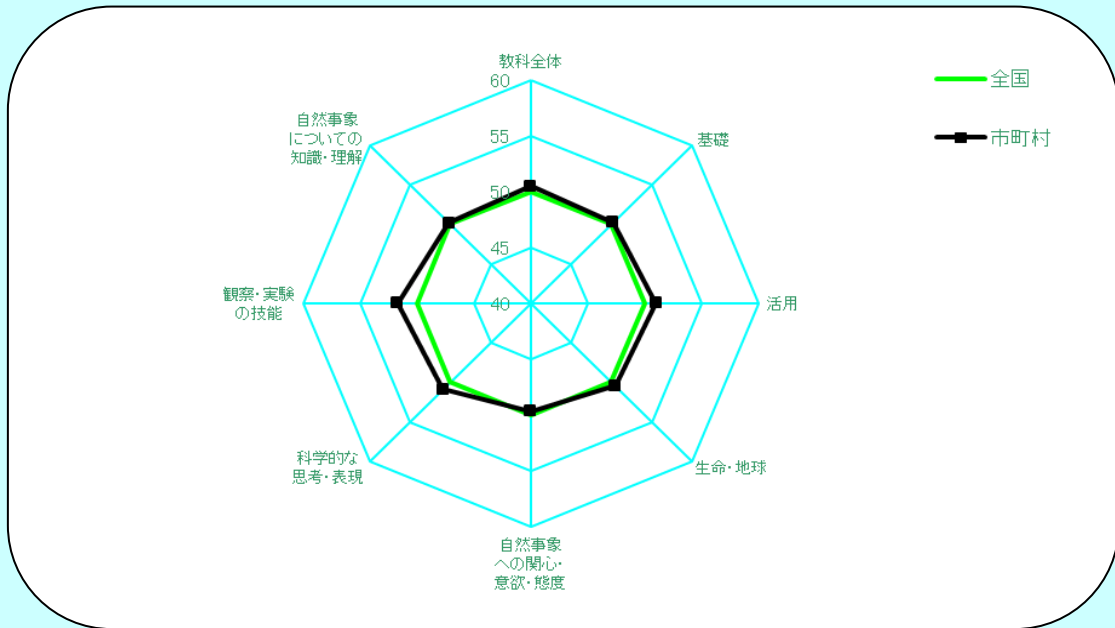
全領域で、活用の主たる観点である「思考・判断力」「表現力」を問う問題は全国平均を上回る結果であった。また、領域別では、工業生産の内容が全国平均を下回っており、「工業生産の費用と工業製品の値段の関係について」等の基礎的な理解を深める必要がある。観点別では、全国平均とほぼ同程度であった。

【算数】



領域別では、図形が全国平均と同程度であったが、他はやや下回る結果であった。数と計算では、分数の通分に課題が見られたため「最小公倍数」について習熟を深める必要がある。また、量と測定では、「単位量あたりの大きさを求める」ことで、異種の2量を比較する等の数学的な考え方のよさを理解させる必要がある。

【理科】



観点別では、科学的な思考・表現、及び観察・実験の技能は全国平均を上回る結果であった。しかし、「実験で調べる条件を科学的に考える」、「花粉を顕微鏡で観察する」等の問題では、全国平均を下回る内容もあり改善が必要である。他は、全国平均と同程度であった。